

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「伝記を読んで感想文を書こう」 教材名「手塚治虫」

2 単元の目標

伝記などの読書が自分の考えを広げる役割に気づき、関心に応じて本を読める。伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伝記などの読書が自分の考えを広げる役割に気づき、関心に応じて本を読んでいる。（〔知識及び技能〕(3)オ）	①「読むこと」において、伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げている。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。成功の経歴の列挙にとどめず、どの経験や判断に心を動かされたかを本文で確かめる。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

伝記に書かれた事実、自分が想像した思い、自分の経験を分ける。別の伝記を参照する場合は出典を添え、食い違いは確認する。人物への尊敬を強制しない。おおむね満足できる状況は、伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、人物の歩みと印象に残った選択を確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○選んだ出来事の前後を読み、判断に関わる事実を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○人物の選択と自分の経験や考えを結び付け、感想文の中心を決める。	思①（発言・学習記録）
	4	○感想文を書いて読み合い、内容の理解と自分の意見を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	5	○交流後に追記し、伝記から考えを広げたことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」 【めあて】伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 結果と選んだ理由の両方に関心をもった。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 結果と選んだ理由の両方に関心をもった。 ・ 自分とは違う時代や条件も考えたい。 ・ 同じ経験はなくても、判断の仕方を自分に引き付けられる。	伝記に書かれた事実、自分が想像した思い、自分の経験を分ける。別の伝記を参照する場合は出典を添え、食い違いは確認する。人物への尊敬を強制しない。 想定する難しさ：年表の要約だけで感想になる。偉人だから全て正しいと考える。未確認の逸話を加える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 同じ経験はなくても、判断の仕方を自分に引き付けられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

